

地域訪問で困りごとを確認

職員育成委員会・中期研修

職員育成のため、10月30日に中堅職員対象の地域訪問を行いました。今年度は丹陽地区を職員10名、友の会員7名で4グループに分かれて訪問し、20軒のお宅にアンケート



丹陽地区の方たちを訪問

1トのご協力をいただきました。

訪問先で千秋病院の職員と名乗ると、快くアンケートに答えてくださることから、千秋病院が地域に根差していることが

分かりました。

高齢の方が多く、何かあった時に不安を感じている方や、自分一人では通院が難しく家族に頼っている方などがいらっしやいました。また、子どもに何かあった時にどこに連絡してよいのか、土日の夜でも病院はやっているのかなど、千秋病院のことが詳しく知られていない実態もつかめ、夜間診療(急外)も行なっていることを伝えました。

職員からは「地域の方から千秋病院に対して思っていることを直接聞くことができ、すごく貴重な経験ができた」「千

秋病院への要望が分かり、それにこたえること

で信頼関係が深まると感じた」などの感想が上がっていました。

ちあきグループの職員として、地域の困りごと

知って・感じて・考えて

認知症く私たちのvoice

おいち祭りで認知症の知識啓発



10月25日、一宮市本町商店街で開催された「第45回おいち祭り」に参加しました。昨年に引き続き「ロバ隊長輪投げ」のほか、「知って・感じて・考えて 認知症く私たちのvoice」と題して当事者・介護者の声

を聞き取り、自分たちに求められていることが何か？ 自分たちは何ができるのか？を考える良い機会となりました。

職員育成委員 三宅 桂子

先輩が取り組むそのひとらしさ

看護部育成委員会で研修

看護部育成委員会では看護師教育のために年間約50名の研修を企画しており、その一つに「先輩が取り組むそのひとらしさ」があり、毎年開催しています。この研修は3年前に「先輩たちが行なっている素晴らしい看護を発表する場をつくらう」という意見から企画されました。

各病棟から報告

A2病棟は、独居が困難になってきたが周囲の協力により在宅生活を支える仕組みを整え、本人が望む在宅退院につなげた事例。

B2病棟は、自由な人

生を生きてきた人が胃がん末期と分かり、愛する家族と穏やかに過ごした最期の4日間。

B3病棟は、周囲に理解されない難病とパーソナリティ障害を抱えた人と信頼関係を築き、今後の治療に結びつけられたこと。

こすもす病棟は、若くして脳出血を発症、帰宅願望が強いためにリハビリが十分できないことに對して寄り添い、心理的支援と他職種連携で在宅復帰を支援したこと。

ひまわり病棟は、突然の交通事故で寝たきりになり、唯一の楽しみである食ふることと体重コントロールで悩む患者に寄

り添い一緒に解決策を考え、現在も一緒に考え続けていること。

すずらん病棟は、精神疾患がある娘さんがお母さんの代理意思を決めなければいけない事例。この事例は、生命予後に関わるような栄養摂取方法を選択しなくてはならない場面でした。そのため

とても時間をかけ、お母さんだっただろう思い、どう感じるかを今までの母子の関わりから紐解いて、娘さんの意思決定を支援していました。

外来看護は認知症があり、糖尿病コントロール困難なご夫婦と、それを支援する介護疲れしてしまっている娘さんの関わ

り。毎月の受診のたびに面談して、在宅生活が継続できるよう社会的資源の活用などにつなげました。

部署を超えて

1事例発表するたびに参加者同士で意見交換を行ない、部署を超えて交流しました。自分たちの看護が患者さんのそのひとらしく生きることの一助になれると実感できた時間でした。

今後看護部理念が当たり前に実践できる看護部であるように、看護部育成委員会は活動をしていきます。

看護部育成委員

看護師 南 康代

を募集し、掲示しました。

また、市内の地域包括支援センター職員や有志の方総勢25名で、立ち寄られた方へ「今からできる認知症予防」のチラシを配り、550世帯以上に認知症知識の啓発ができました。

20代から規則正しい生活を意識することで、将来的な認知症リスクを下げるができます。40代以降は定期的に健康診断を受け、生活習慣の見直しをしましょう。60代



寄せられた voice



輪投げが人気

以降になると、認知症の早期発見が重要です。どの世代にとっても認知症は身近なものです。正しい知識を持つことで、互いに助け合える社会になっていけたらよいと思います。

寄せられたvoiceの一部をご紹介します。当事者「自分がどこに

るか分からなくなるときがある。怖い。周りの家族から『ここは家』と言われても分からない。落ちつく場所に行きたい」介護者「ああしてあげばよかったと思うことばかり。やさしくしておけばよかった」「自分の名前を忘れられてしまうのは悲しかったかな」「周りのサポートが大切」一宮市地域包括支援センター まちなか 宮地 麻梨子

モルック交流会&立食パーティー

職員65名が熱戦繰り広げる

10月10日に尾張健康友会共済会主催「モルック交流会&立食パーティー」

を開催しました。当日は、65名15チームが参加。それぞれ戦略、



ナイター開催の交流会



立食パーティーで乾杯！

練習を重ねて交流会に挑みました。対戦結果は藤原医師が率いる「Mr. モルック」チームが2連覇を達成！各コートでは熱い戦いが繰り広げられ、多くの笑顔と笑い声が響く交流会となりました。

モルック交流会後、立食パーティーを5年ぶりに開催し、表彰式も一緒に行ないました。他部署間の交流も多く見られ、普段の業務から一息つける交流になりました。

総務課 熊崎 育代